



●「美的感性研究会」発足のお知らせ

2023年春、日本色彩学会に新しい研究会が誕生します。

名前は「美的感性研究会」。「美」に関心のある人が集まって議論し共創し合う学際的な場であり、美的感性研究会は、幸福や快適や安心、不安や不調和などの研究まで含むように考えられています。

◆幹事：秋月有紀、浅野晃、川澄未来子、坂本隆、高橋晋也、中村信次、羽成隆司、深井英和、三木学、森友令子、若田忠之、渡邊千穂。(50音順)

◆入会：初年度は日本色彩学会員のみを対象に会員が募集されます。自然環境、都市環境、照明環境、景観、建築、工業製品、美術工芸品、アパレル、肌、顔、化粧、言語、教育、アート、広告デザインなど多様な分野に携わる会員が受け入れられます。

研究発表会やイベントなどが案内されていきますので、入会をご検討ください。

◆入会申込フォーム

<https://forms.gle/HKACcNQgqfcYsQ3e8>

◆設立総会：5/2(火)11時～を予定。

入会された方には、改めて案内されます。

(学会メールニュース No.409 から引用)

●城一夫名誉会員を偲んでー7

城一夫著「日本の色彩百科ー明治・大正・昭和・平成」青幻舎発行 定価 3,080円
初版：2019年6月3日

明治、大正、昭和、平成の色彩を中心に、建築、ファッション、インテリア、プロダクト、グラフィック、アートなど多岐にわたる幅の広い内容である。

順番に開いていくと、テーマや絵、写真、ポスターの色にリンクさせて、頁の右端に関連した色が印刷され、グラデーションやぼかし風の色で柔らかく穏やかな色合いで装飾的に印刷されている点も特徴である。

その時代の情景が思い浮かぶほどの奥行のある内容で、各時代の章の頁、コラムの頁などでは、概要や流行色、まとめなどの記述が読者にとって理解しやすい。古き良き時代の美しい色の世界へ、読者を導いてくれる。

巻末にCMYK値、RGB、マンセル記号、色名、流行年代が記載された日本の流行色一覧が掲載されている。

昭和時代の「色に人生を捧げた画家とは？」では1927(昭和2)年に「日本標準色協会」を設立した洋画家の和田三造画伯についてふれており、著者の各分野での造詣の深さが反映された魅力ある一冊である。(瀧川優子)

●大辞泉ひろいよみ 14ーい

色差し：色さしとも。色をつけること。彩色。着色。顔などの色つや。色のぐあい。

色里：花柳界。特に、遊郭。遊里。色町。

色仕掛け：ある目的を達成するために、色情を利用して異性をだましたり、誘惑したりすること。

色指数：星の色を数量的に示す尺度。写真等級から実視等級を引いた差で示す。赤い星ほど大きい値となる。火成岩分類の基準の一。岩石中に含まれる有色鉱物の割合を百分率で表す。

色品：種々な品。品々。多くの種類。いろいろな手段。方法。

色収差：レンズを通して物体の像を結ばせる時、その像の位置・大きさが、光の波長によって異なること。不透明な像となるため、屈折率の異なる複数のレンズで補正する。

色白：色、特に肌の色が白いこと。また、その様。

色砂：和室の砂壁の上塗りに用いる、色のついた砂。

色刷り・色摺り：種々の色彩を用いて印刷物や版画などを刷ること。また、そのもの。衣服などに、色彩で模様をすり出すこと。

いろせ：いろは接頭語。同母の兄弟。(永田泰弘)